



ぼんチャレンジピック

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・グループで取り組むことによって仲間意識を高めることができます。
- ・グループ内でのコミュニケーションを深め、協力する態度を養うことができます。
- ・各種目を楽しみながら、よろこびや満足感を味わうことができます。

【教科への対応】 小学校：学級活動など 中学校：学級活動など

【組合せ可能な活動プログラム】 野外活動など

2 活動の概要

ぼんチャレンジピックとは、性別、年齢、運動技能に関係なく、手軽に各種目を楽しみながら誰でも高得点を狙えるチャンスがある活動です。いわゆる「勝負に偶然性あり」ということで、チームワークを発揮してがんばりましょう。10種目の中から選択できます。各種目のルールは、それぞれの用具箱に入っています。

(1) 人数 160人以内

※一度に実施できるのは、80人程度のため、他のプログラムと組み合わせて実施することが望ましい。

(2) 対象 制限なし

(3) 期間 通年

(4) 時間 2～3時間（説明20分+活動100～160分）

(5) 場所 体育館、研修室1・2

(6) 経費 無料

(7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



<洗面器松ぼっくり投げ>

3 準備物

団体	救急薬品
個人	運動しやすい服装
自然の家	鉛筆、ピプス、チーム記録カード、クリップボード、用具一式、新記録カード

4 引率者の役割分担

役割名	内容
代表責任者	1名。責任者として全体の総括、指揮、連絡にあたる。
種目担当者	実施種目数に応じて数名。各種目の記録確認、計時、安全管理と活動支援を行う。




<キャップ積みバランス>



<かさバランス>

5 活動の流れ

	内 容
説 明 準 備	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール、安全管理について説明 ・各グループに活動順番について説明 ・鉛筆、ビブス、チーム記録カード、用具一式の貸出、配付
活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・種目担当者は、各用具の準備及び設置を行う。 ・活動順番に従って同時にスタート。（種目ごとの制限時間を設ける） ・グループで協力し、各種目を楽しみながら、高得点を目指す。 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p>①ペットボウリング ②空きカンつみ ③洗面器松ぼっくり投げ ④あずき皿うつし ⑤CDこま回し ⑥かさバランス ⑦紙ちぎりのばし ⑧そろ目出し ⑨キャップ積みバランス ⑩鉛筆たて</p> </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>※ 左記の10種目から、発達段階や児童の人数、実施可能時間等を考慮し、実施する種目を選ぶ。</p> <p>ただし、実施可能時間は、種目から種目へ移動する時間、休憩時間、グループの得点を集計する時間も含むものとする。</p> <p>全種目を実施しても構わない。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・得点結果をチーム記録カードに書き込む。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり（各チームの合計得点の発表） ・自然の家レジェンドボード10種目ベスト3の記録を上回る個人上位者がいた場合は更新する。（更新するかしないかは、団体に一任する。） <p>〈更新の例〉</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; margin-left: 10px;"> <p>※第1位の記録を上回ったとき</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「新記録カード」に必要事項を記入し、1位のホルダーへ入れる。 ②旧1位のカードは2位のホルダーへ、旧2位のカードは3位のホルダーへ移動し、順位を整える。 ③旧3位のカードは、「旧カード入れ」に入れる。 <p>※同記録の場合は、実施日が新しい「記録カード」を前面に重ねて挿入する。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・借用物品を返却

6 実施上の留意点

- ・各種目のルールについて把握しておく。
- ・グループ内で各種目に取り組む過程が重要なので、種目担当者は行き過ぎた助言等はしないようにする。

7 安全に実施するためのポイント

- ・ストレッチなど準備運動をしてから行う。
- ・熱中症対策のため、十分な水分補給をさせる。（途中の休憩必須）